
研究紀要

第73集

目次

はじめに	盛一 純平	
研究概要 全体論	馳 裕紀子	2

よりよい未来を志向する子の育成

— 未来へ生かす決める —

理論と実践

国語科	中山 典子・山岸 哲学・清水 義之	14
社会科	中江 転・井南 亮佑	20
算教科	服部 美雪・長谷川勝浩・岡本 光司	26
理科	横川 竜也・宮崎 雅行・森田健太郎	34
生活科	天満 弥生・早川 佳奈	42
音楽科	徳田 典子・本多 春奈	48
図画工作科	野畠 慎二・中川 佑紀	54
家庭科	馳 裕紀子	60
体育科	島貫 由郷・出嶋志津子・中前 裕佳	66
道徳科	永江 優美	74
英語	乗富 智子	80
情報教育	福田 晃	86

おわりに	河村 真吾	
------	-------	--

令和元年（2019年）11月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校

はじめに

「初春の令月にして、気淑く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披き、欄は珮後の香を薫す」
一人一人の日本人が明日への希望とともにそれぞれの花を大きく咲かせられることができる日本でありたい、という願いを込め新元号「令和」が幕開けしました。

Society5.0が台頭をみせる令和の時代は、日々激しく複雑に変動し、曖昧さを持ち合わせ増々予測困難社会になろうとしています。そのような社会をよりよく生きるには、どのような力が必要であろうか、そのために今、子どもに養っておきたい力は何であろうか。子どもには、価値観も多様化する中で、自らの考えを大切にし、そこから多様な考えを柔軟に取り入れながら、新しい価値を創造させていく力を汎用的に育ていかねばなりません。私たちの研究は、そのような未来社会とそこに生きる子どもを思い描きながら「よりよい未来を志向する子の育成」を研究主題としてきました。

本研究では「決める」を主体的な学びにつながるコンセプトとして研究実践を進めてきました。はじめは「決める」が手段や方法としてとらえていたのですが、研究・実践を重ねていくうちに「決める」自体に主題につながる可能性を見いだすようになってきました。

今年度は最終年の3年次をむかえることとなります。今までに確かになったことを生かし整理し、さらに未来社会を生き抜くための「決める」のもつ力を明らかにしていこうと研究・実践を積んできました。「学びへの原動力を形成する決める」「多様な視点から根拠を持って判断する決める」から「今までの学びをふり返り未来に役立てる決める」へと年次ごとに深化する「決める力」を養うことが、新しい時代の未来を切り開く力のひとつになることと思います。そして子ども一人一人にとって自己実現できる未来になることが令和の願いの実現になることでしょう。

最後になりましたが、本校の教育・研究推進にあたり、ご指導、ご助言をいただきました多くの皆様に心より御礼申し上げます。

また今後とも一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

令和元年11月

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属小学校長
盛一 純平